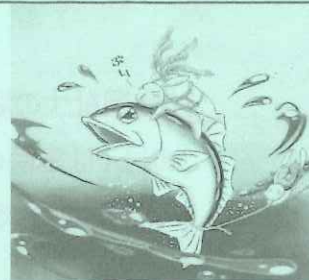


鯿おこし



no.105 号 発行・編集：(一社) 富山県社会福祉士会

〒939-0341 射水市三ヶ 579 富山福祉短期大学 1 号館 1F 内

tel/fax 0766-55-5572

toyama.csw@gmail.com

令和 3 年 11 月 7 日発行

節目

富山県社会福祉士会 会長 清水 剛志

「節目」という言葉があります。節目というのはよく年や年度が新たとなる時のことを指すのだと思いますが、今の時期にも大事な節目の時を感じます。それは、基礎研修Ⅰのはじまりの時期です。私は 3 年目になる基礎研修Ⅰ初回の最初の講義の講師となります。1 年に 1 回この時期に講義の準備をし、社会福祉士や社会福祉士会について考えることが定例となりました。

今年も節目を、新しい会員の皆さんにお会いすることができたという喜びを感じました。講義の内容は「富山県社会福祉士会の歩み」ですので、諸先輩から引き継いできたことやこれまでの組織の変遷などについて説明させていただきました。なかでも社会福祉士の専門性について「研鑽しつづける」「学びつづける」ことをお話しさせていただきましたのです。私たち社会福祉士は、変化の激しい社会に於いても、その状況に立ち止まってはいけないのだと思います。それぞれの職域・分野において業務の形態は様々であると思いますが、共に高め合える仲間としてこれからも活動させていただきたいと願っています。

富山県社会福祉士会の会員が 501 名（2021 年 9 月 30 日現在）となりました。同じ資格をもつ社会福祉士として富山県の仲間が 500 名を超えていることは大変うれしいことだと思います。同時に 500 名を超える会員の皆さんが県内にいらっしゃるのだと心強く思います。会員数 500 名というのも一つの節目ですね。

がんばる社会福祉士

社会福祉士の活動の場所は様々ですが、どこかで繋がっているように思います。

この号では病院の連携室に勤務されている小林さんと、居宅介護支援事業所に勤務されている荒井さんをご紹介します。コロナ禍の状況の中で、クライアントに真摯に向き合う、お二人の優しく、そして強い思いが伝わります。

厚生連高岡病院 社会福祉士 小林美里

私が新卒で現職場に就職してから、早いもので8年の年月が経ちました。現在は結婚し、夫家族と同居しながら2歳の娘を育て、短時間勤務をさせて頂いています。専門職の顔、妻の顔、嫁の顔、母の顔を使い分け、仕事と家庭を両立させることが長い人生を通しての私の課題です。

診療報酬が改定されるごとに入退院支援が重要視されてきた一方で、急性期病院ならではの在院日数の短縮化も念頭に置いた支援が求められ、日々ジレンマを感じています。現在は、コロナの感染対策として、家族や地域の関係機関の方と患者さんの面会が制限され、対面での状態確認や意思確認がしづらい中、退院後の不安や課題等を残した状態での退院も少なくないと思います。入退院支援は地域の関係機関の方々の協力なくしては行えないため、日頃より調整しづらい中、変わらずご尽力頂き、退院後の支援を引き継いで頂いている皆さんには感謝でいっぱいです。いつも本当にありがとうございます。

昨今は、家族構成や家族関係が希薄な方や認知症や精神疾患、要介護者の家族と同居で家族の介護力が希薄な方なども多く、患者さん本人だけではなく、その環境も含めて総合的に生活課題を捉えることがより求められていると感じています。ただ、急性期病院の短い入院期間でできる支援には限度があり、いかに患者さん本人とその家族、地域と病院としての立場の中で、落としどころ見つけていくか、それを見極め支援する力を培うことが必要だと感じています。そして、急性期病院の社会福祉士として、限られた時間の中でも患者さん本人と家族が、主体的に問題や課題を考え、今後の療養生活に向き合っていけるよう「寄り添い支援すること」を大切にしていきたいです。



わくわく小矢部居宅介護支援事業所 荒井真由美

介護支援専門員として仕事をし、12年目になります。現在当事業所の管理者として2名の介護支援専門員と共に地域の皆さんに助けられながら働いています。

介護支援専門員は「人の人生にかかわる大事な仕事」「人を幸せにする仕事」。そう思っています。その人がその人の人生を歩まれる時、ちょっとそばにいらしていただく。その時に専門職として何ができるのか。そっと見守る時もある、今この選択が必要！という時もあります。生きていけばいつどのようなことが起きるかわかりません。目の前に「ちょっと助けてほしい」という方が現れたら・・・専門職として自分の中に多様な引き出しを持っていたい。その引き出しは奥行き深いものでありたい。そして自分自身も人として成長したい。それが社会福祉士資格取得の動機です。

さて、昨年からのコロナ禍の中、みなさん苦悩されていることと思います。私たち介護支援専門員も、状況によっては訪問を控えたり、面談時間を短縮したり、担当者会議を電話で行ったりと様々な制約の中での支援を余儀なくされています。このような状況下で、私は「しっかりと利用者さんやご家族と向き合えているのだろうか」「何か欠けてきているのではないかと悩むようになりました。在宅介護を担っておられる介護者の方が「孤独になっていないか」「疲弊していないか」等気がかりなことは増えるばかりです。そこで当事業所の利用者家族を対象に「在宅介護に関するアンケート調査」を実施しました。アンケートの結果を分析すると、「介護の知識や技術を気軽に学べる場」や「介護者同志が交流できる場」を求める声や、「今後の不安」や「孤独感を感じている」という回答がとても多かったです。この結果をうけて当事業所でできることはないか考え、まずは介護者交流もかねた「介護ミニ講座」を定期的を開催することにしました。

「ささやかな日常の中にこそ真の幸せがある」・・・コロナ禍で気づいたことです。縁あってつながりができた方お一人お一人を大切に想い、自分にできることを模索しながらこれからも「福祉の仕事」を続けていきたいと思っています。



研修報告

基礎研修Ⅰを受講された3名の方に感想をお願いしました。

基礎研修Ⅰは10/9(土)に当初予定していた会場集合研修をオンラインに変更して開催されました。参加者は17名です。講義部分は日本社会福祉士会のe-ラーニング講座を導入しています。清水会長から「富山県社会福祉士会の歩み」についての講演があり、その後グループワークで「社会福祉士としての専門性について考える」の演習を行いました。

基礎研修Ⅰに参加して

富山西総合病院 肥後 香代子

社会福祉士になって、早〇十年と経過。今までは、ただ、社会福祉士の専門性を生かした業務というよりは、病院の中でのMSWの地位を高めるためにはということに重きをおいていた業務を行っており、今更ながら、社会福祉士の専門性を改めて学びなおしたいと思い、参加をさせていただきました。

今回は、zoomでの参加ということで、機械音痴の私は、子供や同僚からレクチャーを受けての参加です。zoomの良いところは、移動などに時間がかからないということが良いところかと思いますが、普段なら会場で参加者同士、顔を合わせて、近況報告などを行い、雑談なども交わすこともできる場ではあるのですが、それができず、とても残念でした。声をかける手段も思いつかず。アイコンタクトが通じているかもわからず。やはり、研修会場での研修は大切だと体感した研修でした。

研修自体は、改めて、社会福祉士の専門性について考えることができ、社会福祉士の可能性を感じることができたものでした。研修委員の皆様、大変、ご苦労様でした。次回の研修は、直接顔を合わせての研修になることを祈っています。

基礎研修Ⅰを受講して

会員 鈴木 志歩

私は社会福祉士として業務を行うなかで、専門性や専門的技術とはどのようなものか自分の考えに自信を持てずにいました。そこで今回、同研修を受講していた職場の先輩の勧めもあり、基礎研修を受講する決心をしました。集合研修Ⅰでは、日本社会福祉士会のあゆみや生涯研修制度についての幅広い内容を学ぶことが出来ました。またグループワークでは他機関で働く社会福祉士の皆さんと顔を合わせて意見交換をし、それぞれの所属先の話を知ることができとても貴重な経験でした。基礎研修を通じて専門職としての基盤を構築できるよう、今後の研修過程も頑張っていきたいと思います。

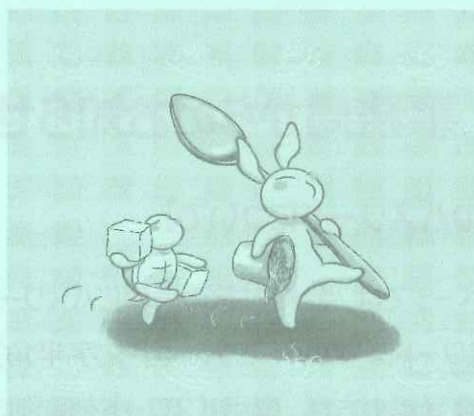
基礎研修Ⅰ オンライン集合研修を受講して

会員

袴谷 豊

2021年度の生涯研修、基礎研修を受講しました。今回は新型コロナウイルス流行による感染対策のために、自宅からのリモートという形での参加となりました。

私は以前に勤務していた先輩から「先々の事を考えて、社会福祉士を取っておいた方が良い」と、勧められて資格を取得しました。将来的には成年後見業務などを考えていますが、社会福祉士としての業務は未だ経験していないので、実際に現場で活躍している参加者の意見や経験談はとても興味深い内容ばかりでした。しかし、オンラインという研修の特性上、個別に時間を取るということができなかったことは残念でしたが、今回のグループワークで知ることができた現場の方の意見を将来の自身の活動に活かしていけるよう、この研修を通じて自己研鑽を重ねていきたいと思います。



専門書紹介

支援者が成長するための50の原則—あなたの心と力を築く物語

川村隆彦 著 中央法規

かなり前の研修になるが、サンシップとやまで川村先生をお招きした研修に参加した。研修の中で床に引かれた線から自分の身長と同じ場所に木製の目印を置く。その目印も自分で制作したものだ。（ずいぶん前の記憶なので間違っていたらごめんなさい）自分の身長分離れた場所にある自分の大切な印を、仲間の力を借りて取るという演習だ。当時、私は社会福祉士の資格を遅ればせながら取り、社会福祉士会に入会したばかりの頃。さて、どうしたらその自分の大切な印を取ることができるのか？それには「できます！」と宣言し、グループのメンバーと手を繋ぎ、体を思い切り線の外に出して手を伸ばす！その印を取り、床に崩れ落ちそうになる私をメンバーが引き上げてくれる。メンバーを信じ、挑戦すれば困難な事に成功するという体験ができた。実は、その研修で私はワンピースを着ていた。「パ〇ツが見えてしまうかもしれない」その時グループのメンバーは「見てしまうかもしれないけれど、言いません！」と。その言葉で私は思い切り体を伸ばして目標を掴めたのだ。（確認、パ〇ツは見えてなかった）

この研修をきっかけに、川村先生の専門書を数冊読んだ。この書では事例を読むので、専門書に慣れていない自分にも大変読みやすい専門書だった。フレッシュなソーシャルワーカーにもお勧めだ。

富山県社会福祉士会 オンライン忘年会のお知らせ

コロナ禍の中で研修はオンラインで開催され、担当委員も zoom の操作にも慣れたところです。基礎研修を受講された会員の方々からも、会員同士交流を持ちたいという意見があるように、会ではオンライン忘年会を計画いたしました。(以下チラシから抜粋)

コロナ禍で対面でのコミュニケーションが制限され、交流の機会が減っていることと思います。そんな中でも、会員相互の交流を深め、顔の見える関係、ネットワークづくりができないかと、オンライン忘年会を企画してみることになりました。当日は話題別のブレイクアウトルームを参加者が自由に移動し、交流を楽しめるようにしたいと考えております。初めての取り組みになりますので、どんな感じになるかわかりませんが、zoom 未経験の方でも体験だと思って遠慮せずご参加ください。みなさまの参加をお待ちしています！

**** ** 事務局からのお知らせ ** ****

【本会ホームページのパスワードについて】

本会のホームページでは、会員対象の情報にパスワードを設定しています。

会員専用パスワードは [] です。 []

なお、基礎研修受講の方は、専用パスワードを個別にお知らせしています。

※お問い合わせは、事務局まで E-mail またはお電話でお願いいたします。

(水・土日・祝祭日を除いた 10:00～15:00)

E-mail : toyama.csw@gmail.com

Tel/Fax : 0766-55-5572

編集後記

独立型社会福祉士メンバーが編集している「現場主義」という雑誌がある。各地で実践するソーシャルワーカーが紹介されているが、ぱあとなあ富山の若いソーシャルワーカーを紹介している。 (「現場主義」7号 新科学出版社 良ければ覗いてみてください) 会長の原稿の中に、富山県社会福祉士会の会員数が500人を突破した事に触れている文章がある。少しずつであるが会員数は増えている。仲間と繋がることの大切さをコロナ禍のおかげで強く思うことになった。そのチャンスをもたらした zoom 忘年会で、たくさんの仲間の皆さんとお話をしたいと思う。

(永野)